

資料 7（追加）

○第 2 回審議会での指摘事項対応

指摘事項	審議会での回答
○アンケートについて	
・年齢別×住宅関連施策の重要度・満足度	資料 4 にて対応
・問 17（困っている点）の詳細な分析	資料 4 にて対応
○若者の定住について ・アンケートで「現在の住まいに住み続けたいか」×年齢別の検討を行う。	資料 4 にて対応
・20 代女性の純移動数の母数を知りたい（純移動数の変化だけでなく、母数と転出者数の両方の把握が必要）	○平成 27 年 4 月で母数 2,999 人、転出者数 132 人（約 4.4%） ○令和 2 年 4 月で母数 2,631 人、転出者数 92 人（約 3.5%） という結果であり、転出数、転出率ともに減少している。
・I ターンや就職サイトの構築が完了となっているが他事業に引き継がれたのか。	資料 3 にて対応
→形を変えたのであれば、その後の追跡も必要。	
○民間借家について 民借での転勤による外部からの移入、地域内での世帯分離による利便性の高い地区への移住と、氷上等の区画整理による戸建て増とは意味合いが異なる。 丹波における実情を分析する必要がある。	事業者ヒアリングによれば、民間賃貸として人気の高い地域は、生活の利便性、医療・教育の充実度等により氷上、柏原を中心とした地域であり、しばらくは民間賃貸に居住し、経済力を蓄積した後、終のすみかとして石生地域等の分譲団地を購入する、という流れがある。
→市南部の世帯分離し利便性の高いところに民借する話と氷上などの区画整理に戸建てが増える話とは意味合いが異なる。その分析が必要。	ただし、丹波市まちづくりビジョンにおいては、①市の中心部に都市機能の一定の集積を進める、②住み慣れた地域に住み続ける、という 2 つの方向性を定めている。
○今後のアンケートについて U ターン、I ターンをした人にどう評価しているかを聞いてはどうか。	資料 4 にて対応
年齢層にこだわらず U・I ターンの分析をしてもらいたい。	
丹波の森協会・丹波の森研究所では神楽・小川地区で I・J ターンの調査・ヒアリングを行っている。	
アンケート自由回答欄が、どのような人が回答しているかが知りたい。アンケートの再分析を願う。	資料 4 にて対応
○基本方針について 魅力ある住まいの中身について今後議論すべき重要なポイントである。	資料 5 にて対応

評価指標の達成状況

令和4年2月18日資料作成

平成28年度現行計画で設定された評価指標の令和2年度の段階での達成度は以下のとおりである。

○達成度指標

- ・順調 : 目標値を上回る
- ・やや遅れている : 目標値をやや下回る
- ・更なる取り組みが必要 : 目標値を大きく下回る

1. ”丹波市”の魅力を活かした住まいとまちを創る

	住生活の成果指標	前回設定（H27年度）		今回（令和2年度）検証	
		計画策定時	目標値 （令和7年度）	現状値 （令和2年度）	達成度
1	住み続ける上で困っていること：買い物や通勤時の交通手段が不便（住まいの市民アンケート結果より）	20.9%	減少	25.4%	更なる取り組みが必要
2	相談窓口を利用して移住した世帯数	7世帯/年	増加	50世帯/年	順調

2. 若者定住に向けた住まいとまちを創る

	住生活の成果指標	前回設定（H27年度）		今回（令和2年度）検証	
		計画策定時	目標値 （令和7年度）	現状値 （令和2年度）	達成度
1	今後の居住意向：丹波市に住みたい（住まいの市民アンケート結果より）	57.4%	増加		
1	お住まいの自治会・小学校区の住環境に満足している市民の割合（丹波市 市民意識アンケートの結果より）	63.6%	増加	60.0%	やや遅れている
2	ふるさと教育の参加人数	1,104人/年	増加	1,062人/年	やや遅れている
3	20代女性の純移動数（転出超過数）	132人/年	減少	92人/年	順調

3. 誰もが安全で住まいとまちを創る

	住生活の成果指標	前回設定（H27年度）		今回（令和2年度）検証	
		計画策定時	目標値 （令和7年度）	現状値 （令和2年度）	達成度
1	住み続ける上で困っていること：水害や土砂災害など防災面で不安（住まいの市民アンケート結果より）	40.9%	減少	30.0%	順調
2	高齢者が積極的に地域での活動に参加できていると感じている市民の割合（丹波市 市民意識アンケートの結果より）	43.2%	増加	44.5%	順調
3	バリアフリー改修の補助件数	239件	増加	361件	順調

4. 住宅セーフティネットの充実した住まいとまちを創る

	住生活の成果指標	前回設定（H27年度）		今回（令和2年度）検証	
		計画策定時	目標値 （令和7年度）	現状値 （令和2年度）	達成度
1	長寿命化型の改修を実施した市営住宅の戸数	18戸	150戸	108戸	更なる取り組みが必要